

当施設利用規約・注意事項 1

施設利用注意事項		クライミングエリアについて	
①	室内は禁煙です。室外の喫煙コーナーをご利用下さい。	登り出す前の注意	
②	アルコール、危険薬物などを飲んでのご利用はお断りしております。それが施設利用前であってもお止め下さい。	①	手足の爪が長い場合割れる又は接がれてしまう恐れがあります。爪切りをご用意しておりますので、切られることをおすすめします。
③	健康に不安がある方や途中で体調が悪くなった場合は施設のご利用を中断して下さい。	②	指輪や腕時計、イヤリングやピアスは必ず外して下さい。キズが付くだけでなく、ご自身の怪我の原因となる場合がございます。
④	上半身裸、裸足で登ることは断りしております。必ず服の着用とクライミングシューズを履いて下さい。レンタルシューズは靴下を着用して下さい。	③	眼鏡をご使用の方は眼鏡バンド着用をおすすめします。落ちた衝撃で壊してしまう危険がございますのでお気を付け下さい。
⑤	18歳未満の方は、利用規約・誓約書を保護者に確認し、同意書の記入がないと利用することはできません。必ず記入してもらって下さい。	④	衣類に鍵を付けたままや、ポケットに物を入れた状態での利用はお止め下さい。落として破損、怪我の原因となる場合がございます。
⑥	中学生未満のご利用は、保護者又は18歳以上の引率者同伴がないとご利用いただくことができません。	⑤	動きやすい服装に着替え、準備運動を必ず行って下さい。怪我の予防にもなります。
⑦	施設内での紛失及び盗難に関しては、当施設では一切責任は負いませんので、とくに貴重品などは自己管理にてしっかり保管下さい。	⑥	室内で利用されるチョークは、必ずチョークボールの使用をお願いします。室内にチョークが舞ってしまう為ご協力をお願いします。
⑧	施設内の忘れ物は1ヶ月間保管、その間にお問い合わせの無い場合は処分させていただきます。	⑦	ホールド(クライマーの手がかり)は、ボルトにより壁に取り付けられています。性質上割れたり強い負荷が加わることにより回転することがございます。これは性質上完全に防ぐことができません。この可能性があることを認識してご利用下さい。割れたホールドの落下なども考えられます。当たれば重大な怪我へとつながりますのでクライマーの下には絶対に入らないで下さい。
⑨	駐車場での事故や盗難には当施設では一切責任は負いません。自己での処理をお願いします。	ボルダリングのルール	
⑩	領収した代金は、如何なる場合でも返金いたしかねます。怪我など自己体調管理には十分お気を付け下さい。	①	登っている人の下には絶対に入らないで下さい。落ちてきた人と接触し両者共に重大な怪我する危険があります。
⑪	他のお客様の迷惑となる行為、または施設管理運営及び安全上支障があると判断した場合施設の利用を中止していただきます。	②	各面毎に登れるクライマーは一人として下さい。壁はアルファベットで名前が分けてございます確認の上登って下さい。
⑫	スタッフの警告や注意を無視した場合は、利用を中止していただく場合がございます。	③	左右隣接する壁や他の登るクライマーに接近しないかを確認してから登って下さい。
中学生未満の保護者様へ		④	長時間同じ壁を占領しないで下さい。周りのお客様と譲り合ってご利用をお願いします。
①	マットの上を走らせたり、飛び跳ねたりして遊ばせないで下さい。他のお客様のご迷惑となります。	⑤	混雑時には、長物課題(番号課題)又は複数面を使用する課題のトライはお控え下さい。
②	常にお子様から目を離さないで下さい。他のお客様が着地した所にお子様いた場合、接触事故となり重大な怪我へとつながります。	⑥	常に自分の周りの頭上を確認して下さい。落ちてくるクライマーと接触しないよう壁から距離をおくようにして下さい。
③	お子様一人につき保護者様一人必ずそばに居て下さい。複数の場合は一人ずつ登らせ同時に別の壁で登らないように見てください。	⑦	ホールド以外の物を掴んだり(ハンガーやカラビナや壁上部など)、又はボルト穴に指を入れて登るのはお止め下さい。手を怪我する危険があります。
④	自分で降りられない高さまで登らせない出ください。飛び降りて遊ぶこともさせないで下さい。怪我につながりますのでご注意下さい。	⑧	壁上部で壁の裏を覗きこむのはお止め下さい。その際に落ちた場合怪我をする危険があります。
⑤	高い所へ登った場合はスポット(補助動作)をし、お子様の安全を確保して下さい。	⑨	危険な課題作成はお止め下さい。安全な着地ができないものや、マットの外に落ちる可能性がある課題は危険です。
⑥	大声で騒いだりされますと他のお客様の集中を途絶えさせる原因にもなります。ご迷惑となりますのでお止め下さい。	⑩	ロープクライミングをされている方が居る場合、隣接した壁をボルダリングで利用するのはお控え下さい。クライマーと確保者に接触する危険がございます。
⑦	おもちゃの持ち込みはご遠慮下さい。施設内ではクライミング以外では遊ばせないで下さい。	着地について	
⑧	同意書の記入は必ず行って下さい。規約・誓約書は必ず一読して下さい。ご理解いただいた上でご利用下さい。	①	着地は必ず足から行って下さい。腰や手や肩などから落ちてしまうと身体を痛める原因にもなります。膝の屈伸で衝撃を緩和させて着地して下さい。
休憩スペース・更衣室利用について		②	着地地点の安全を確認してから降りて下さい。マットの上には人や障害物がないかを目で確認して下さい。
①	飲食はクライミングエリア(マット近く)ではお止め下さい。マット近くではペットボトルなどキャップ付のものは構いません。その他は休憩スペースをお願いします。	③	壁の上部からマットに飛び降りるのはお止め下さい。腰や膝を痛める原因につながります。余力がある場合は、途中まで降りて高度を下げ着地して下さい。
②	荷物置き場やベンチなどは、複数のお客様が利用しやすいよう使用する幅などにはご協力下さい。ゴミはゴミ箱へ入れて下さい。	④	マットと壁の間には隙間が開いています。そこへ落ちると怪我をする危険がありますのでご注意下さい。
③	室外の喫煙所はご近所の迷惑にならぬよう静かにご利用下さい。	マットは安全を完全に保障するものではありません。着地を誤ると重大な怪我へとつながります。マットを過信せず着地には十分ご注意下さい。	

当施設利用規約・注意事項2

ロープクライミング利用について

クライマー

ロープクライミングエリアの使用は、経験者(熟練者)その経験者と同伴の方、また『室内ロープクライミング講習』を受講された方のみとさせていただきます。技術に不安がある方は受講をおすすめします。
ロープクライミングをするにあたって、使用する道具の装着方法や使用方法それに準ずる注意事項を十分理解し行わないと死亡事故を含む重大な事故、怪我をする危険があります。しっかりとしたクライミング技術、確保技術がない限りロープクライミングエリアの使用はご遠慮下さい。使用されるお客様も以下の注意事項をお守りいただくことを条件にご利用をお願いします。

道具

- ① 道具(ロープ・ハーネス・確保器・クイックロー)はお客様持参の物をお使い下さい。ハーネスはレンタルはございません。
- ② 使用慣れた道具をご使用下さい。不慣れた道具を使用される場合はメーカーの使用方法を良く読み十分理解してからご使用下さい。
- ③ 老朽化したロープ・ハーネス・確保器・クイックローなどのご使用はお止め下さい。
- ④ 短いロープは使用しないで下さい。当施設リード壁の高さは約8メートルです、斜めや横に登るなど、折り返し分も考慮し余裕を持ち20メートル以上は必要です。
- ⑤ ハーネスはご自分に合うサイズをご使用下さい。大きすぎると体が抜け落ちる危険があります。折り返しのあるハーネスは必ずバックルに折り返して下さい。
- ⑥ ロープはハーネスの正しい位置に結んで下さい。ビレイロープやギアラック等には結ばないで下さい。
- ⑦ ロープをハーネスに結ぶ際は、8の字結びで結んで下さい。クライマーがロープを結んでいる際は話しかけないで下さい。不安な場合は結び直して下さい。

確保(ビレイ)

- ① ビレイヤーは、ロープで繋がっているクライマーを絶対に地面まで落とすはいけません。重大な怪我となります。常に緊張感を持ちビレイを行って下さい。
- ② 確保器のワイヤーとロープは安全環付カラビナ(ロック付)に通し使用して下さい。
- ③ クライマーが1本目にロープをカラビナにクリップするまでは、スポットを行って下さい。ロープが足に絡まらないようビレイヤーはロープもさばく必要があります。
- ④ ビレイ中は必ず止める側の手をロープから離してはなりません。離れた際にクライマーが落ちた場合止めることができなくなります。
- ⑤ ビレイヤーは常にクライマーから目を離さないで下さい。よそ見をしたり他の方と話し込んだりするのはお止め下さい。
- ⑥ ビレイヤーは必ずクライマーの指示に従いクライマーからの合図で操作を行って下さい。
- ⑦ クライマーが気付いていない危険が見受けられた場合はすぐクライマーに知らせそれを回避させて下さい。ズクリップやロープと壁の間に足がある場合など。
- ⑧ クライマーとの体重差(クライマー>ビレイヤー)が大きい場合、パートナーを換えて下さい。居ない場合はスタッフにお声かけ下さい。
- ⑨ ビレイヤーは壁から後ろに下がってのビレイは危険ですのでお止め下さい。クライマーが落ちた場合強い衝撃により壁にひ引かれ、ロープが流れクライマーが地面に落ちる危険と、落ちた際クライマーの足にロープが絡み火傷や身体が逆さまになり頭を壁に打ち付ける危険があります。ビレイヤーはクライマーが登るルートを検討しビレイの位置には十分注意して下さい。
- ⑩ ロープは必要以上に出し過ぎないで下さい。ロープにたるみがある場合クライマーを地面まで落としてしまう危険があります、たるみはすぐに戻して下さい。
- ⑪ ビレイヤーは手袋をされることをおすすめします。クライマーが落ちた際や、降るす際にロープと手が擦れて火傷をする危険もあります。
- ⑫ クライマーをロープダウンで降るす際、クライマーが安全な状態になったかどうかを確認してからビレイを解除して下さい。
- ⑬ クライマーがロープやハーネスを付け直した際は必ずビレイヤーはクライマーの結び目やハーネスの装着が正確にされているか確認して下さい。

- ① ロープクライミングの壁はお一人づつしか取り付くことができません。複数人取り付かないで下さい。
- ② 他のボルダリング壁で登っている方の状況を確認の上登り始めて下さい。落下の際ボルダリング壁の方と接触すると危険です。
- ③ ビレイヤーが確保器を正しく装着しているかを見て、自分のハーネス装着とロープの結び方をビレイヤーに見せ、必ずお互いに確認し合ってから登って下さい。
- ④ 自分がどのルートに登るのかをビレイヤーに必ず伝えてから登り始めて下さい。ビレイヤーの位置によっては危険な場合があります。
- ⑤ ハンガーやカラビナは掴まないで下さい。ハンガーやカラビナを掴んだ状態で墜落すると手の骨折または切断等の怪我をする危険があります。
- ⑥ ロープと壁の間に足や体を入れしないで下さい。その状態で落ちた場合、足がロープに絡んで逆さまになり頭部を壁に打つ危険があります。
- ⑦ トップロープでご利用される場合は、必ず先にリードで登り、登った側のロープを引き、次に登る方が逆から中間視点を外しながら登るという方法のみとして下さい。
- ⑧ リードクライミングの際は、クリップを飛ばすのは禁止です。下から上まで登るライン上のハンガーは絶対にかけて下さい。飛ばすと落下距離が伸びて危険です。
- ⑨ ロープを手繰った状態のまま動かないで下さい。手繰った分ロープが伸びている為その際に落ちると落下距離が伸びて地面に接触する危険があります。
- ⑩ ロープを手繰った状態で落ちることは危険ですお止め下さい。自分の余力を考え登って下さい。落ちる時でもできるだけビレイヤーに声をかけてから離れて下さい。
- ⑪ ロープはカラビナに正しくかけて下さい。逆クリップやゼットクリップなどをした場合カラビナからロープが外れたり、身動きがとれなくなる危険があります。
- ⑫ カラビナをかける向きは、ロープが流れる方向も考慮しかけて下さい。ゲイト側をロープが流れるとごくまれに落ちたショックによりロープが外れる危険があります。
- ⑬ 終了視点はカラビナを2個かけてからロープダウンをビレイヤーにしてもらって下さい。
- ⑭ 黒ラインより下にかけたクイックローの回収は降りてから登り返して回収して下さい。(黒ラインまではボルダリングで使用できるように下にマットがございます。)
- ⑮ 登り終わったら、次に利用される方の為にも早めにロープを抜いて下さい。結び目は必ず解いてから抜くようにして下さい。

ロープクライミングは、ロープを結び合うパートナーとの意思疎通が大切です、信頼できるパートナーと登るようにして下さい。
もし事故が起こった際にお互いが辛い思いをしてしまいます、そうならない為にも安全管理に常に気を配り危険に繋がる行為や状況を見つけた際は直ちに伝えそれを回避するように努めて下さい。

技術に不安をお持ちの方は、当施設で『室内ロープクライミング講習会』を開催しております。受講していただき不確かなことを無くしてより安全にロープクライミングをお楽しみいただけるようサポートさせていただきます。



PEAK'N